

ぼくが生まれる前から家族を見守ってくれてありがとう。ぼくは生まれてからずっとここに住んでいたから、ここでたくさんの方ができるようになりました。言葉覚えて、お話が

できるようになり、歩けるようになる、一人でトイレに行けるようになりました。友だちの家のようになり、新しくもなくて、どっちかというと古い、ボロボロだけれど、毎年の誕生日に測った身長が柱に書いてあったり、キャンプや

自然、体馬なごきをして来た時に名札に使ったガムテープが障子、はいに貼ってあった、ぼくがいろいろなところで

もう、てきたり買って、きたうちわがた、さんあて、ぼくの成長の

記録がた、さん話、ています。

ぼくは、大人になるまで、とここに住んで大きくなると、いくんだと思、ていました。

でも、三月の地震で壁が落ちたり、傾いたりして、ぼくは引越さなければいけなくな、てしまいました。

ぼくは、引越しをしな、なければいけ、ないと

わかった時は、とても悲しくて、悔しくて泣きました。



本きは引越したくないし、ず、とここにいたい、です。ごんなにボロボロでも、ぼくにとって、はここが最高の家です。だけれど、やっぱり引越しはしなければいけない、です。ぼくは、この事で家、って何だろう、と考、えました。そして、家はただ寝たり、

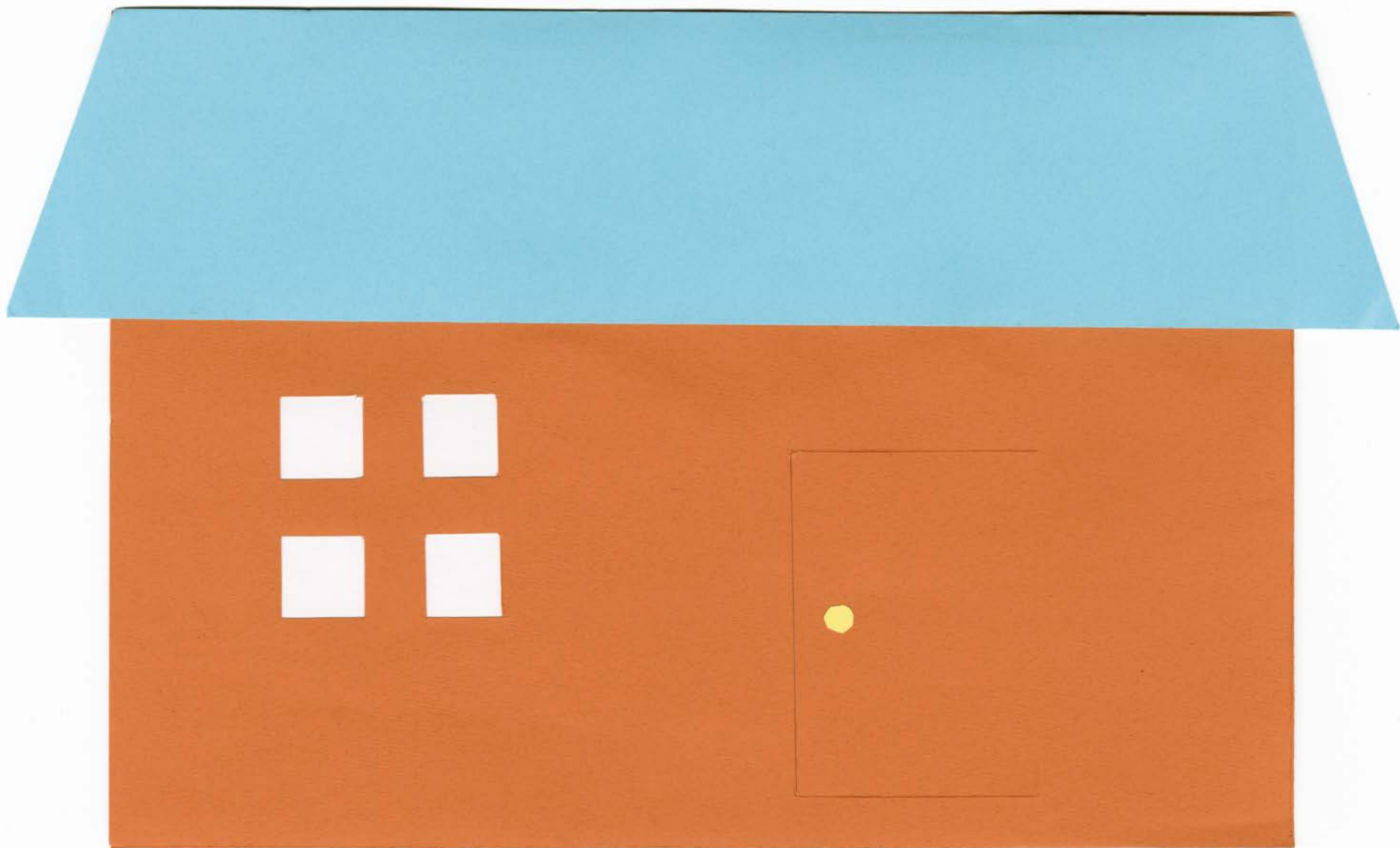
ごはんを食、べたりする場所、ではなく、家族の歴史が刻、まれている、大事な場所、なんじゃないかと、思、いました。

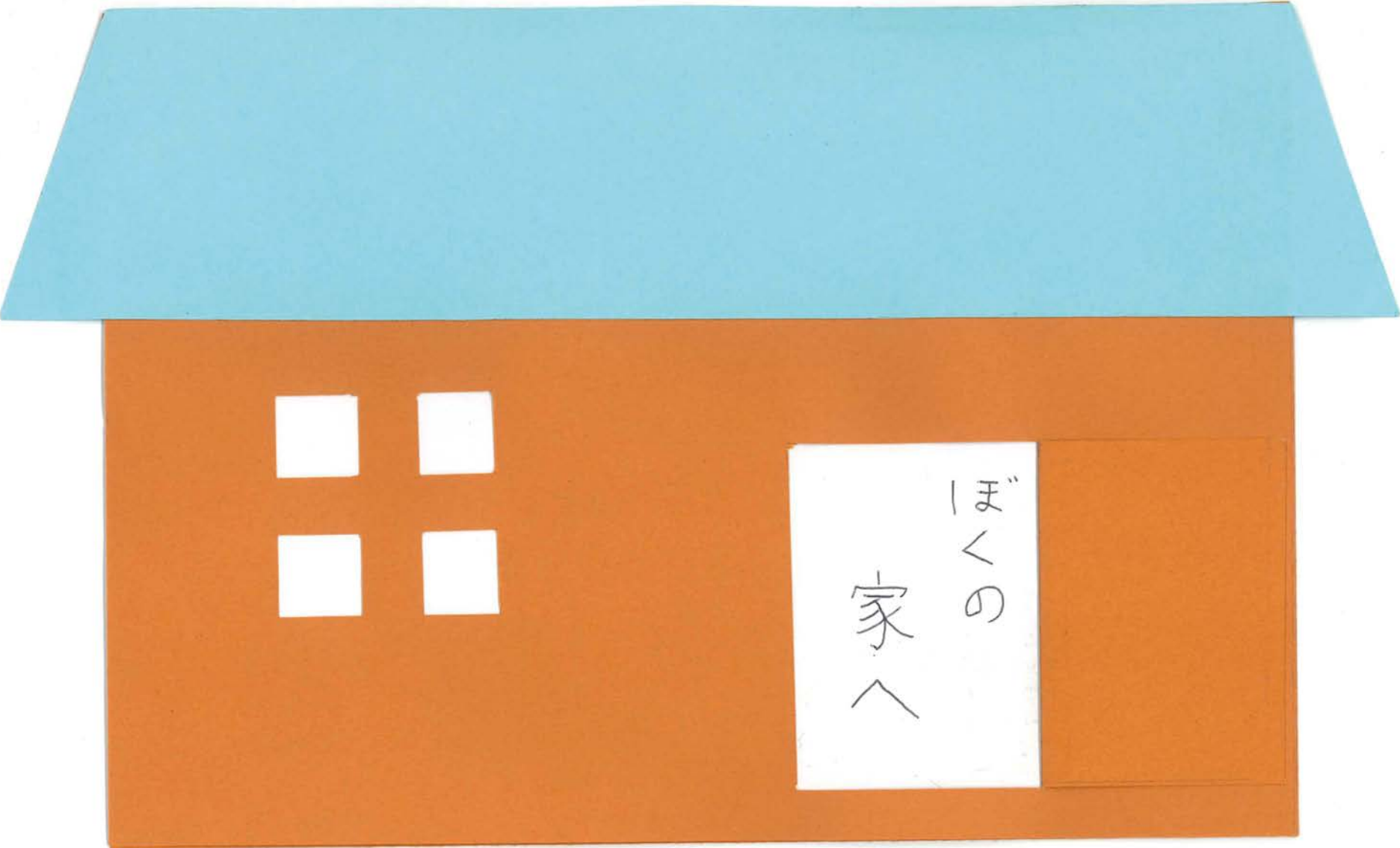
「ただいま」と言、える場所、が、とても大切で、安心、できる場所、なんだ、という事、もわかりました。だから、新しい家に引越、しても、今の家の、ように、家族、みんな、で、新たな歴史、を刻、んで、新しい家が、大切で、安心、できる場所、になる、よう、に、がんば、ろう、と、思、います。

へうまで、ぼくの成長を見守、ってくれて、ありが、とう。大切なもの、について、考、える事、を、教、えて、く、れて、ありが、とう。引越、しても、ず、っと

忘れ、ない、から、ね

羊我 燕





ぼく
の

家へ